

東北の夏！ 夏祭りの夏！

今年も東北に夏がやって来ました。東北も猛暑ですが、関東や関西ほどではありません。7月には、豪雨によって、山形県や秋田県に大きな被害が出ました。また、猛暑で山形県のサクランボは不況でした。特に農家は、水害や台風によって、農作物を収穫できない場合があつて心配です。

とは言え、東北の夏、それは夏祭りの夏です。7月下旬から8月下旬にかけて、各地で夏祭りが行われました。夏祭りは大きく分けて、山車や神輿が出る場合と、盆踊りに分かれます。前者は、神社の祭りで、その年の豊年収穫を祝います。後者は各地域に伝わる盆踊りで、お盆で帰って来る先祖を供養します。

祭りや踊りなどの民族芸能は、今伝承が危ぶまれています。地域の人口減少によって、若者がいなくなって、神輿の担ぎ手が少なくなっています。地域の青年団などが、各地域の祭りのボランティアをしている例もあります。代々伝わってきた各地の踊りも危機に瀕しています。昔は小中学校で、生徒は踊りを練習しました。しかし、学校の統廃合によって、地域との結びつきが無くなって、学校での踊りの練習も少なくなりました。昔は通学は徒歩でしたが、今では広域のスクールバスになって、放課後のクラブ活動もあまりできません。

祭り好きの私はこの夏、青森県と秋田県へ行きました。私は、観光化された東北六大祭り（福島わらじ祭り・仙台七夕祭り・盛岡さんさ踊り・青森ねぶた祭り・秋田竿灯祭り・山形花笠踊り）には、あまり興味がありません。その地方地方に残っている祭りが好きです。

青森県では、八戸市の三社大祭と弘前市の弘前ねぶた祭りを見ました。秋田県では、鹿角（かづの）市の毛馬内盆踊りを見ました。三社大祭は、「おがみ神社・長者山新羅神社・神明宮の三つの神社の神輿行列と、神話や歌舞伎等を題材に各山車組が制作した27台の山車の運行。高さ10m・幅8mにもなる山車が通るたび、沿道では大きな歓声があがります。」

弘前ねぶた祭りは、「三国志や水滸伝などを題材にした勇壮で色鮮やかな武者絵が描かれた扇ねぶたや、組ねぶた大小合わせて総数約80台が、ヤーヤドーの掛け声と共に市内を練り歩くまつりです。」毛馬内盆踊りは、「大太鼓と笛の囃子で踊る「大の坂」と、無伴奏の唄のみで踊る「甚句」の二つで構成されています。独特の頬（ほほ）被りは、この地域がかつて藩境で争いが多く、婦女の略奪等を避けるために変装をした名残りと言われていています。」

祭りを見て考えたことは、祭りは町人の文化だということです。江戸時代の身分制度は「士農工商」です。しかし、実際に社会を動かしていたのは武士ではなく、農民や商人などの庶民だったのです。特に、北前船や商品取引で発展した地方には、今も祭りが残されています。そして、その財政力は、豪商や商人ではないか、と思います。祭りは、農民の「五穀豊穰」や商人の「商売繁盛」を願います。そして、そのことへのお礼が、神社への祭りになったのではないか、と思います。

今回感動したのは、毛馬内盆踊りの帰り、十和田南駅までタクシーに乗ったら、運転手さ

んから「どちらまで行くのですか」と聞かれたので、「鹿角（かづさ）花輪駅までです」と言ったら、「私も鹿角花輪まで車で帰るので、私の車と一緒に乗せてっあげますよ」「いくらですか?」「お金はいいです」と言われました。



【3つの神社を山車が巡る 八戸三社大祭（青森県八戸市）】（2024年8月1日撮影）



【頬かぶりをして踊る毛馬内盆踊り（秋田県鹿角（かづの）市）】（2024年8月21日撮影）

◇是非、福島へ来てください。被災地を案内します。

携帯：090-5300-4664

メールアドレス p-mia08@outlook.jp